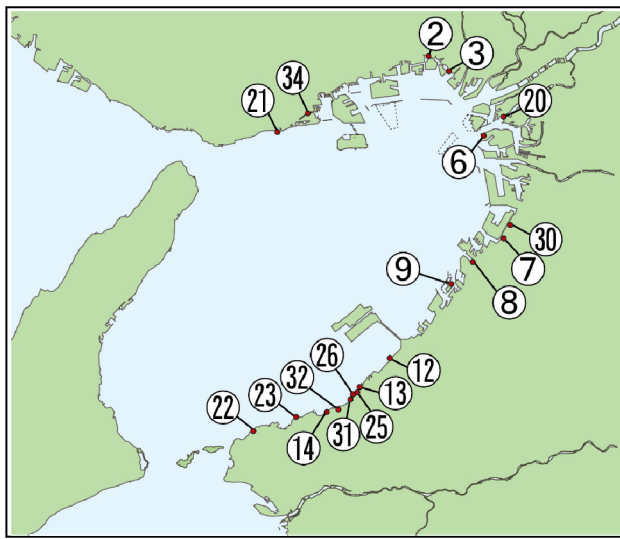


令和3年度 第14回大阪湾生き物一斉調査について

1. 調査概要

令和3年度は、5月～7月における任意の一日に、大阪湾沿岸域の19地点において、21団体、712名が参加して、第14回大阪湾生き物一斉調査を実施しました。調査地点及び担当団体等は図1に示すとおりです。

なお、本年度の調査については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各団体が5月～7月までの任意の日程で実施した生き物調査について調査データの提供を受け、結果を整理しました。



【兵庫県内】

調査地点	担当団体
21	須磨海岸 須磨海岸生物調査研究所[5/29]
34-2	兵庫運河（新川橋河口） 兵庫・水辺ネットワーク[6/23、24]
34-3	兵庫運河（浜山小） 浜山小学校4年生5年生 観察会[6/23]
2	香榎園浜 西宮貝類館[6/8]
3	甲子園浜 NPO法人 海浜の自然環境を守る会[5/26、28]

【大阪府内】

調査地点	担当団体
20	天保山 海遊館[5/29]
6	野島臨港緑地 NPO法人 南港ウェットランドグループ[6/23]
30	浜寺水路 浜寺公園自然の会[7/24]
7	高師浜 浜寺公園自然の会[7/23]
8	大津川河口（左岸） きしわだ自然資料館[5/29]
9	阪南2区造成干潟 きしわだ自然資料館[5/12、13]
12	樫井川河口・岡田浦海岸 男里川干潟を守る会、きしわだ自然資料館[5/15]
13	男里川河口干潟 男里川干潟を守る会、きしわだ自然資料館[6/12] NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、尾崎小学校[6/10] NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、上荘小学校[6/23]
25	尾崎海岸 NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、西鳥取小学校[6/24] (公社)大阪自然環境保全協会 (海のふしぎ観察会) [7/10]
26	波有手海岸 NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、セブンイレブン記念財団[6/26]
31	西鳥取海岸 NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、下荘小学校、舞小学校[6/25]
32	箱作自然海岸 NPO法人 大阪湾沿岸環境創造研究センター、 チーム☆ガサ、上荘小学校[6/24]
14	せんなん里海公園 里海くらぶ連絡協議会、チーム☆ガサ[5/29]
23	長松海岸 (公社)大阪自然環境保全協会（空の会） [5/26、6/9]
22	豊国崎 (公社)大阪自然環境保全協会 (海のふしぎ観察会) [5/16]

図1 令和3年度の調査地点一覧

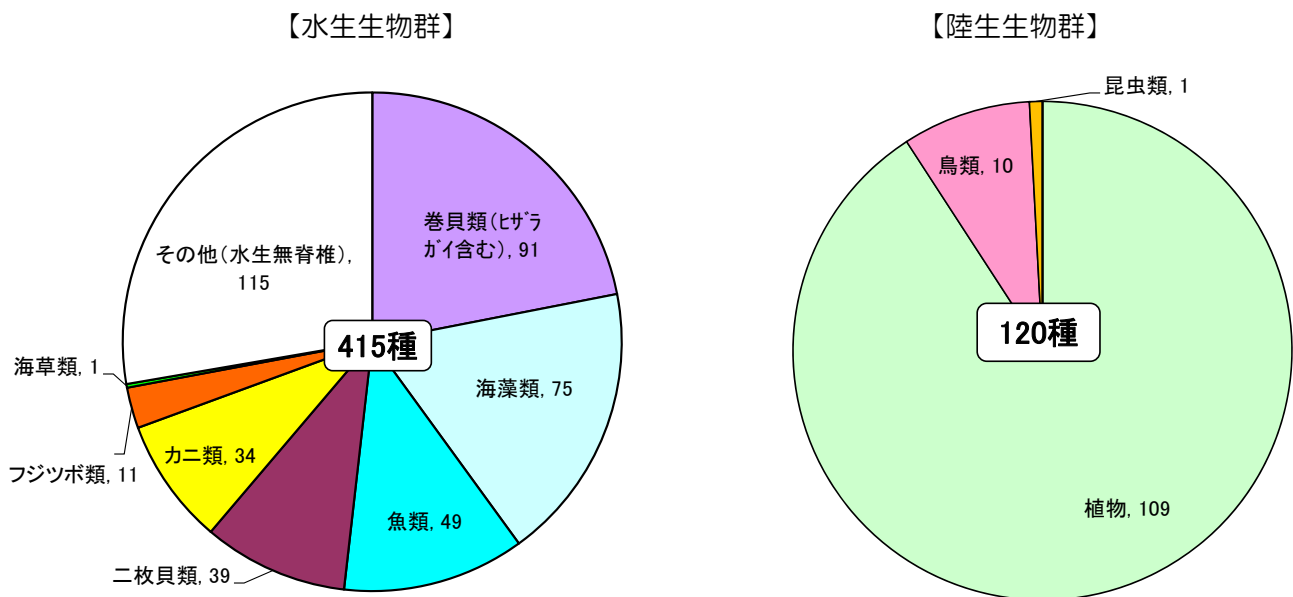
2. 出現種

本年度の大阪湾生き物一斉調査によって確認された出現種を図2、表1に示しました。

種名まで判別した種類は全体で535種（うち、調査シート掲載種40種）でした。

全体の出現種については、水生生物群では、海藻類及び海草類が76種、動物は貝類が130種（巻貝91種、二枚貝39種）、魚類が49種、カニ類が34種等でした。また、陸生生物群では、陸上植物が109種、鳥類が10種等でした。

出現種のうち特筆すべき種として、兵庫県、大阪府、水産庁、WWF、干潟の絶滅危惧動物図鑑の各RDBと環境省のレッドリスト（2020年）に掲載されている種に該当するものを付表1に示しました。全体の貴重種としては82種類（属含む、陸生種除く）が該当しました。このうち、海藻・海草類はスジアオノリ、ヤナギモク、アマモの3種、動物では、貝類がウミニナ、エドガワミズゴマツボ、シラギクガイ、ミヤコドリガイ、オオノガイ、ユウシオガイ等の41種、多毛類がコケゴカイ、タマシキゴカイ等の5種、カニ類はオサガニ、ハクセンシオマネキ、ヒメアシハラガニ等の14種、魚類はニホンウナギ等の3種、その他はスジホシムシ、ヒモイカリナマコ、ヒガシナメクジウオ等の12種等でした。



注) 1. 数字は種数を示す。

2. 陸生生物群の「その他」は爬虫類、両生類、陸生無脊椎動物を含む。

図2 令和3年度出現種の分類群別種数（全体）

表1(1) 令和3年度出現種一覧

分類群	No.	和名	分類群	No.	和名		
海藻類	緑藻類	1	アオサ属		81	ミノゴノリ	
		2	アオサ属(アオノリ型)		82	ムカデノリ	
		3	アナアオサ		83	ユカリ	
		4	シオグサ科		84	ワツナギソウ	
		5	ジュズモ属		85	紅藻類	
		6	スジアオノリ		86	ユレモ科	
		7	ハネモ		藍藻類	1	アマモ
		8	ヒメアオノリ属			1	アキノレ
		9	ヒラアオノリ			2	アキノゲシ
		10	ポウアオノリ			3	アキノミチヤナギ
		11	ホソジュズモ			4	アメリカオニアザミ
		12	ボタンアオサ			5	アメリカネナシカズラ
		13	ミル			6	アメリカフウロ
	14	アカモク	7	アレチウリ			
	15	アミジグサ	8	アレチギシギシ			
	16	アミジグサ科(サナダグサ?)	9	アレチムラサキ			
	17	イシゲ	10	アロエ属			
	18	イトモク	11	イタチハギ			
	19	ウミウチワ	12	イタドリ			
	20	ウミトラノオ	13	イスホオズキ			
	21	カゴメノリ	14	イヨカズラ			
	22	カジメ	15	エノキ			
	23	カヤモノリ	16	エノログサ			
	24	サナダグサ	17	オオアレチノギク			
	25	シワノカワ	18	オオオナモミ			
	26	タマノハハキモク	19	オカタイトゴメ			
	27	ネバリモ	20	オカヒジキ			
	28	ヒジキ	21	オシロイバナ			
	29	フクロノリ	22	オツタチカタハミ			
	30	ヘラヤハズ	23	オニグルミ			
	31	ヤナギモク	24	オニシバ			
	32	ヤハズグサ	25	オニタヒラコ			
	33	ヨレモクモドキ	26	カモジグサ			
	34	ワカメ	27	カラスノエンドウ			
	海藻類	褐藻類	35	イソダンツウ	28	カラスムギ	
			36	イバラノリ	29	ギシギシ	
			37	エチゴカニノテ	30	ギョウギシバ	
			38	エナシダジヤ	31	キンエノコロ	
			39	オオオゴノリ	32	クサスギカズラ	
			40	オオバツノマタ	33	クズ	
			41	オオマタオキツノリ	34	クスダマツメクサ	
			42	オキツノリ	35	クスノキ	
			43	オゴノリ	36	クロマツ	
			44	オバクサ	37	コウボウシバ	
			45	カイノリ	38	コウボウムギ	
46			カギウスバノリ	39	コゴメバトギリ		
47			カニノテ属	40	コセンダングサ		
48		カバノリ	41	コバンソウ			
49		キプリイトグサ	42	コマツヨイグサ			
50		クロソブ	43	コメツブウマゴヤシ			
51		クロモ	44	コメツブツメクサ			
52		ケイギス	45	シオクグ			
53		コザネモ	46	シナダレスズメガヤ			
54		コメノリ	47	シバ			
55		サクラノリ	48	シロザ			
56		シラモ	49	シロバナマンテマ			
57		スキノリ	50	スイカズラ			
58		ソノ属	51	ススキ			
59		タオヤギソウ	52	セイバンモロコシ			
60		タンバノリ	53	センダン			
61		ツノマタ	54	タイトゴメ			
62		ツノマタ属	55	ダキバアレチハナガサ			
63		ツノムカデ	56	チガヤ			
64		ツルツル	57	ツタ			
65		トサカマツ	58	ツメクサ			
66		ナミノハナ	59	ツルナ			
67		ニクムカデ	60	ツルニチニチソウ			
68		ハイウスバノリ	61	テリハノイバラ			
69		ハイテングサ	62	トゲチシャ			
70		ヒメテングサ	63	トベラ			
71		ヒライボ	64	ナガバギシギシ			
72		ヒラムカデ	65	ナルトサワギク			
73		ビリヒバ	66	ニワウルシ			
74		フクロフノリ	67	ニワゼキショウ			
75		フシツナギ	68	ヌルデ			
76		フダラク	69	ネコハギ			
77		ベニスナゴ	70	ネズミムギ属			
78		ベニマダラ	71	ネムノキ			
79		マクサ	72	ノイバラ			
80	マツノリ	73	ノゲシ				

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) :種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)。

表1 (2) 令和3年度出現種一覧

分類群	No.	和名	分類群	No.	和名			
植物(続き)	74	ノブドウ	貝類(続き)	42	キクノハナガイ			
	75	ノラニンジン		43	クサイロアオガイ			
	76	ハナハマセンブリ		44	クチキレガイ			
	77	ハマアオスゲ		45	クモリアオガイ			
	78	ハマウド		46	クリイロカワザンショウ属			
	79	ハマエンドウ		47	クリイロキリオレ			
	80	ハマオモト		48	クリフレイシガイ			
	81	ハマゴウ		49	クロアワビ			
	82	ハマサジ		50	クロコソデウミウシ			
	83	ハマスゲ		51	オリイレヨフバイ属			
	84	ハマダイコン		52	クロツケガイ			
	85	ハマナデシコ		53	コウダカアオガイ			
	86	ハマビシ		54	コガモガイ			
	87	ハマヒルガオ		55	コシダカガンガラ			
	88	ハマボウフウ		56	コビトウラウスガイ			
	89	ハマボッス		57	コベルトカニモリガイ			
	90	ハママツナ		58	ゴマフビロードウミウシ属			
	91	ヒメクダ		59	コメツガイ			
	92	ヒメジョオン		60	コモレビコガモガイ			
	93	ヒルザキツキミソウ		61	サザエ			
	94	ヘラオオハコ		62	シゲヤスイトカケギリガイ			
	95	ホコガタアカザ		63	シボリガイ			
	96	ホソバハマアカザ		64	シマハマツボ			
	97	ホソムギ		65	シマメノウフネガイ			
	98	マサキ		66	シラギクガイ			
	99	マツヨイグサ属		67	シロウミウシ			
	100	マコノシリヌグイ		68	スオウクチキレガイ			
	101	マゲンバイナズナ		69	スガイ			
	102	マンテマ		70	スズメハマツボ			
	103	ミチバタナデシコ		71	ダイダイウミウシ			
	104	メドハギ		72	タケノコカワニナ			
	105	メシバ		73	タニシツボ			
	106	メマツヨイグサ		74	タマキビガイ			
	107	メリケンムグラ		75	タマツボ			
	108	ヤマアワ		76	テグサガイ			
	109	ヨシ		77	チャツボ			
	110	ヨツバハコベ		78	ツメタガイ			
	111	ヨモギ		79	トウガタガイ科			
	112	ランタナ		80	スカルミクチキレガイ			
	貝類	ヒザラガイ類		1	ウスヒザラガイ	81	ハブタエブドウガイ	
				2	ウスヒザラガイ属	82	ヒメコザラガイ	
				3	クサズリガイ	83	ヒラスカンガイ	
				4	ケハダヒザラガイ	84	フドウガイ	
				5	ケハダヒザラガイ科	85	フトヘナタリ	
				6	ババガセ	86	ベッコウガサガイ	
				7	ヒザラガイ	87	ヘナタリ	
				8	ヒメケハダヒザラガイ	88	ボサツガイ	
				9	ヤスリヒザラガイ	89	ホソウミニナ	
		巻き貝類		10	Cingulina属	90	ホソスジアオガイ	
				11	Trinchesia perca	91	マダラウミウシ	
				12	Retusa属	92	マツバガイ	
				13	アオウミウシ	93	マメウラシマガイ	
				14	アオガイ	94	マルウスラタマキビガイ	
				15	アカエラミノウミウシ	95	ミノウミウシ	
				16	アカエラミノウミウシ属	96	ミヤコドリガイ	
				17	アカニシ	97	ムギガイ	
				18	アシヤガイ	98	メリベウミウシ属	
				19	アメフラシ	99	ヤマトウミウシ	
				20	アラムシロガイ	100	ヨコイトカケギリ	
				21	アラレタマキビガイ	101	ヨメガカサガイ	
				22	アリモウミウシ	102	レイシガイ	
				23	インダタミガイ	二枚貝類	103	アオカリガネエガイ
				24	イシマキガイ		104	アサリ
				25	イズミドリガイ		105	イワガキ
				26	イソニナ		106	ウスカラシオツガイ
				27	イトカケガイ科		107	ウネナシトマヤガイ
				28	イボニシ		108	オノノガイ
				29	イリエゴウナ		109	カガミガイ
				30	ウノアシガイ		110	カリガネエガイ
				31	ウミナメクジ		111	キクザルガイ
				32	ウミニナ		112	キヌマイトガイ
				33	エドガワミズゴマツボ	113	クチバガイ	
				34	オオヘビガイ	114	ケガキ	
				35	オトメウミウシ	115	コウロエンカワヒバリガイ	
				36	オトメガサ	116	サクラガイ	
				37	カキウラクチキレモドキ	117	シズクガイ	
				38	カスリアオガイ	118	セミアサリ	
				39	カノコキセワタ	119	ソトオリガイ	
				40	カラマツガイ	120	チヨノハナガイ	
				41	カワザンショウガイ	121	トマヤガイ	

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)。

表1 (3) 令和3年度出現種一覧

分類群	No.	和名	分類群	No.	和名	
貝類(続き) 二枚貝類(続き)	122	ナミマガシワガイ	フジツボ類(続き)	5	クロフジツボ	
	123	ニッポンマメアゲマキガイ		6	サンカクフジツボ	
	124	バカガイ		7	シロスジフジツボ	
	125	ヒバリガイ		8	タテジマフジツボ	
	126	ヒメアサリ		9	ドロフジツボ	
	127	ヒメカノコアサリ		10	ムツアナヒラフジツボ	
	128	ヒメシラトリガイ		11	ヨーロッパフジツボ	
	129	フクレユキミノガイ		ヤドカリ類	1	イソカナダマシ
	130	ベニエガイ			2	イザナミツノヤドカリ
	131	ホトトギスガイ			3	ケアシホンヤドカリ
	132	ホンビノスガイ			4	ケブカヒメヨコバサミ
	133	マガキ	5		コブヨコバサミ	
	134	マツカゼガイ	6		テナガツノヤドカリ	
	135	マテガイ	7		ヒラトゲガニ	
136	ミドリイガイ	8	ホンヤドカリ			
137	ミミエガイ	9	ユビナガホンヤドカリ			
138	ムラサキイガイ	10	ヨモギホンヤドカリ			
139	ムラサキガイ	カニ類	1	アシハラガニ		
140	ヤマトシジミ		2	イシガニ		
141	ユウシオガイ		3	イソガニ		
多毛類	1		Glycera属	4	イッカクモガニ	
	2		Harmothoe属	5	イワガニ	
	3		Schistomeringos属	6	オウキガニ	
	4		Streblosoma属	7	オサガニ	
	5		アシナガゴカイ	8	カクベンケイガニ	
	6		アミメオニスピオ	9	ガザミ	
	7		イソタマシキゴカイ	10	ケフサイソガニ	
	8		ウズマキゴカイ科	11	シオマネキ	
	9		ウミケムシ	12	シワオウギガニ	
	10		ウロコムシ科	13	スナガニ	
	11		エゾカサネカンザシゴカイ	14	スナガニ属	
	12		オウギゴカイ	15	スネナガイソガニ	
	13		カニヤドリカンザシゴカイ	16	スベスベオウギガニ	
	14		カワゴカイ属	17	タイワンガザミ	
	15		クマノアシツキ	18	タカノケフサイソガニ	
	16		ケヤリムシ	19	チチュウカイミドリガニ	
	17		ゴカイ科	20	トリウミアカイソモドキ	
	18		コケゴカイ	21	ハクセンシオマネキ	
	19		サンバゴカイ科	22	ハマガニ	
	20		サンハチウロコムシ	23	ヒメアシハラガニ	
	21		シリソ科	24	ヒメケブカガニ	
	22		スナイソゴカイ	25	ヒメベンケイガニ	
	23		タマシキゴカイ	26	ヒライソガニ	
	24		タマシキゴカイ科	27	ヒライソガニ属(ケシヒライガニ)	
	25		ツブラホコムシ	28	フタバカクガニ	
	26		ナデシコカンザシゴカイ	29	フタバベニツケガニ	
	27		フサゴカイ科	30	マメコブシガニ	
	28		ホソトゲカンザシゴカイ	31	マメツブガニ	
	29		ミズヒキゴカイ	32	モクスガニ	
	30		ミズヒキゴカイ科	33	ヤマトオサガニ	
	31		ミロクウロコムシ	34	ユビアカベンケイガニ	
	32		ムツエダカンザシゴカイ	35	ヨツハマゴガニ	
	33	ヤスリゴカイ	魚類	1	アイゴ	
	34	ヤッコカンザシゴカイ		2	アイナメ	
	35	多毛類		3	アオタナゴ	
ヨコエビ・ワレカラ類	1	Monocorophium属		4	アゴハゼ	
	2	アリアケドロクダムシ		5	アサヒアナハゼ	
	3	ウエノドロクダムシ		6	アナハゼ	
	4	オオワレカラ		7	アミメハギ	
	5	トゲワレカラ		8	イカナゴ	
	6	ドロコエビ属		9	イシガレイ	
	7	トンガリドロクダムシ		10	イシダイ	
	8	ニホンドロコエビ		11	イソギンポ	
	9	ハマトビムシ科		12	イソギンポ科	
	10	ヒゲツノメリタヨコエビ		13	イダテンギンポ	
	11	ヒゲナガヨコエビ属		14	ウスバハギ	
12	ヒメハマトビムシ	15		ウミタナゴ属		
13	ヒメハマトビムシ種群	16		ウルメイワシ		
14	フサゲモクス	17		ウロハゼ		
15	フトメリタヨコエビ	18		オクウジ		
16	ボシエットゲオヨコエビ	19		オニオコゼ		
17	マルエワレカラ	20		キチヌ		
18	メリタヨコエビ属	21		キヌバリ		
19	ヤシヤヒメヨコエビ属	22		キュウセン		
20	ワレカラ属	23		クサフグ		
21	ヨコエビ類	24		クジメ		
フジツボ類	1	アカフジツボ		25	クロウシノシタ	
	2	アメリカフジツボ		26	クロダイ	
	3	イワフジツボ		27	コケギンポ属	
	4	カメノテ		28	コモンフグ	

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) :種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)。

表1(4) 令和3年度出現種一覧

分類群	No.	和名	分類群	No.	和名	
魚類(続き)	29	ゴンズイ	その他(続き)	39	コノハエビ類	
	30	サラサカジカ		等脚類	40	イソペラムシ
	31	ショウサイフグ		41	コツムシ科	
	32	シロメバル		42	シリケンウミゼミ	
	33	スジハゼ		43	フナムシ	
	34	スズキ		アナジャコ類	44	アナジャコ科
	35	ダイナンギンボ		45	ニホンスナモグリ	
	36	タケギンボ		46	ハサミシヤコエビ	
	37	タツノオトシゴ		タナイス類	47	タナイス科
	38	チチブ		エビ類	48	アシナガスジエビ
	39	ツマグロスジハゼ		49	イソスジエビ	
	40	トサカギンボ		50	イソテッポウエビ種群	
	41	ドロメ		51	イソモエビ	
	42	ナベカ		52	エビジャコ属	
	43	ニシキギンボ属		53	クルマエビ	
	44	ニホンウナギ		54	コシマガリモエビ	
	45	ネズミゴチ		55	スズエビモドキ	
	46	ヒガンフグ		56	スズエビ属	
	47	ヒメハゼ		57	セジロムラサキエビ	
	48	フグ科		58	テッポウエビ	
	49	ボラ		59	テッポウエビ科	
	50	ボラ科		60	テッポウエビ属	
	51	ホンペラ		61	ホソモエビ	
	52	マハゼ		62	ユビナガスジエビ	
	53	ミズハゼ属		63	ヨシエビ	
	54	ミズハゼ属(イソ型)		64	ギボシムシ科	
	55	ムラソイ		クモヒトデ類	65	カキクモヒトデ
	56	メジナ		66	ダイリンチビクモヒトデ	
	57	メジナ属		67	ナガトゲクモヒトデ	
	58	メバル属		68	ニホンクモヒトデ	
	59	ヨウジウオ		ヒトデ類	69	イトマキヒトデ
	昆虫類	1		ムラサキウミトビムシ	70	キヒトデ(マヒトデ)
	鳥類	1		アオサギ	71	チビイトマキヒトデ
		2		カルガモ	72	トゲモミジガイ
		3		カワウ	73	ヌノメイトマキヒトデ
		4		シロチドリ	74	ヒメヒトデ
		5		スズメ	75	モミジガイ
		6		チュウシャクシギ	76	ヤツデヒトデ
7		トビ	ウニ類	77	アカウニ	
8		ハシブトガラス	78	サンショウウニ		
9		ヒバリ	79	サンショウウニ科		
10		ミサゴ	80	ハフウウニ		
その他	カイメン類	1	Haliciona属	81	ヒラタフンブク	
		2	クロイソカイメン	82	ムラサキウニ	
		3	コエダカイメン	ナマコ類	83	ヒモイカリナマコ
		4	ダイダイイソカイメン	84	マナマコ	
		5	ナミノイソカイメン	ホヤ類	85	Botrylloides属
	6	ミズクラゲ	86		イタボヤ科	
	クラゲ類	7	ウミサカツキガヤ科		87	エボヤ
		8	カキノテクラゲ		88	カクウレイボヤ
		9	カザリクラゲ		89	ザラボヤ
		10	クダウミヒドラ科		90	シロウスボヤ
	イソギンチャク類	11	イシワケイソギンチャク		91	シロボヤ
		12	ウメボシイソギンチャク科		92	フタスジボヤ
		13	タテジマイソギンチャク		93	マンジュウボヤ
		14	チギレイソギンチャク		94	マンハッタンボヤ
		15	ベリルイソギンチャク		95	ユウレイボヤ
		16	ヨロイソギンチャク	ナメクジウオ類	96	ヒガシナメクジウオ
	ヒラムシ類	17	ウスヒラムシ	種類数 分類群数		
		18	ツノヒラムシ	海藻・海草類	76 11	
		19	ヒラムシ目	陸上植物	109 3	
		20	モヨウマルヒラムシ	動物	350 69	
	ヒモムシ類	21	ミドリヒモムシ	合計種類数(●) 535 合計分類群数(□) 83		
	コケムシ類	22	Bugulina stolonifera	合計種・分類群数(●+□) 618		
		23	アミコケムシ科			
		24	チゴケムシ			
		25	トゲヒラコケムシ科			
		26	ハナザラコケムシ			
		27	ヒラコケムシ科			
		28	フサコケムシ属			
		29	モンクチコケムシ			
		30	モンクチコケムシ科			
		31	マダコ			
	頭足類	32	ヒメイカ			
	ホシムシ類	33	スジホシムシ			
	ミミズ類	34	イソミミズ			
	ウミグモ類	35	シマウミグモ			
		36	ズングリツマリウミグモ			
	貝形虫類	37	ウミホタル科			
		38	フクロムシ類			

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) :種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)。

3. 調査シートのリスト掲載種の出現状況

3-1. 令和3年度結果

調査シート掲載種の調査箇所別出現状況を表2に示しました。

なお、一連の環境で行われた近傍の地点は、出現頻度の過大評価を避けるため統合しました。

表2 調査シート掲載種の調査箇所別出現状況（令和3年度）

分類群	No.	和名	調査地																			出現頻度（19地点中）	
			地点No.	① 須磨海岸	② 香榎園浜	③④ 兵庫運河（新川橋河口・浜山小学校養浜）	⑤ 甲子園浜（東干潟・中央磯）	⑥ 野島園臨港緑地	⑦ 天保山	⑧ 浜寺水路	⑨ 高師浜	⑩ 大津川河口（左岸）	⑪ 阪南二区造成干潟	⑫ 櫻井川河口・岡田浦海岸	⑬ 男里川河口干潟（尾崎小・上荘小）	⑭ 尾崎海岸（新町海岸）	⑮ 波有手海岸（西鳥取漁港西）	⑯ 西鳥取海岸海堂東	⑰ 箱作海岸	⑱ せんなん里海公園	⑲ 長松海岸		⑳ 豊国崎
海藻類	緑藻類	1	アナアオサ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
		2	スジアオリ		●			●		●													4
	紅藻類	3	オコノリ	●									●	●			●	●				5	
植物		1	オカヒジキ	●			●															4	
		2	コウボウムギ	●			●																3
		3	ハマウド													●	●						3
		4	ハマゴウ	●	●		●								●	●							5
		5	ハマダイコン	●			●								●	●	●						6
		6	ハマボウフウ	●			●								●								
貝類	巻き貝類	1	アラレタマキガイ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●					●	●	12	
		2	イシマキガイ		●	●	●								●								3
		3	イボニシ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●					●	●	15
		4	タマキガイ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●						●	11
		5	フレイトゲアメフラシ																				0
	二枚貝類	6	アサリ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●						13
		7	ウスカラシオツガイ		●	●	●			●	●	●											6
		8	ウネナシトマヤガイ			●	●			●	●	●				●							7
		9	クチバガイ		●	●				●	●	●				●							6
		10	ケガキ	●	●						●					●					●	●	6
		11	コウロエンカワヒバリガイ	●	●	●	●			●	●	●				●							8
		12	マガキ	●	●	●	●			●	●	●				●	●				●	●	14
		13	ムラサキガイ	●	●	●	●			●	●					●							8
フジツボ類		1	アカフジツボ																		●	1	
		2	アメリカフジツボ		●	●	●	●		●	●	●	●		●								9
		3	クロフジツボ	●	●										●						●	●	6
		4	シロスジフジツボ	●	●											●							4
		5	タデジマフジツボ	●	●	●	●			●	●	●	●			●						●	12
		6	ドロフジツボ							●													1
		7	ヨーロッパフジツボ	●	●	●	●			●	●	●				●							9
ヤドカリ類		1	ホンヤドカリ			●								●						●	●	5	
		2	ユビナガホンヤドカリ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●					15
カニ類		1	アカテガニ																			0	
		2	アシハラガニ				●								●							2	
		3	イソガニ	●		●	●					●	●	●	●						●	●	11
		4	オウギガニ			●									●						●	●	5
		5	クロベンケイガニ																				0
		6	ケフサイソガニ		●	●	●					●	●	●	●	●	●						10
		7	スナガニ		●	●					●												3
		8	タカノケフサイソガニ		●	●	●			●	●	●	●	●									9
		9	チチュウカイミドリガニ				●	●			●												3
		10	ハクセンシオマネキ		●		●	●					●	●	●	●						●	7
		11	ヒライソガニ	●		●	●						●	●	●	●			●	●	●	●	14
		12	ヤマトオサガニ									●		●									3
その他		1	多毛類	□	□	□	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	11	
		2	ヨコエビ類	□	□	□	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	14
			種類数(●)	20	19	23	25	21	7	15	20	19	12	21	26	12	4	4	4	12	14	8	40

注:1) ●:種まで同定されたもの □:種まで同定されていないもの(種類に含めない)

2) 種名は各分類群中で五十音順

3) 地点 No.3, 34 はいずれも近傍地点の調査結果を統合した

4) 地点 No.13,25 は2団体以上の調査結果を統合した

調査シートの一覧掲載種の出現頻度を河口、内湾、外海等の生態型とともに整理し、図5に示しました。各種の生態型については、大阪湾生き物一斉調査解説ブック、第24回 淀川環境委員会 4.汽水域環境部会 汽水域生物環境評価WG報告の「分析対象種と類型」及び各種図鑑等に記載されている生態を参考に分類しました。

全体に河口～内湾型や内湾～外海型の種の出現頻度が高く、ユビナガホンヤドカリは19地点中15地点、マガキは14地点で確認されました。内湾～外海型の生物ではイボニシ、ヒライソガニ、アナアオサ、アラレタマキビガイが12～15地点で、河口型の生物ではケフサイソガニ、タカノケフサイソガニが9～10地点で確認されました。なお、今年度は調査シートに掲載された37種（海浜植物6種除く）のうちクロベンケイガニ、アカテガニ、フレリトゲアメフラシを除く34種がいずれかの地点で確認されました。

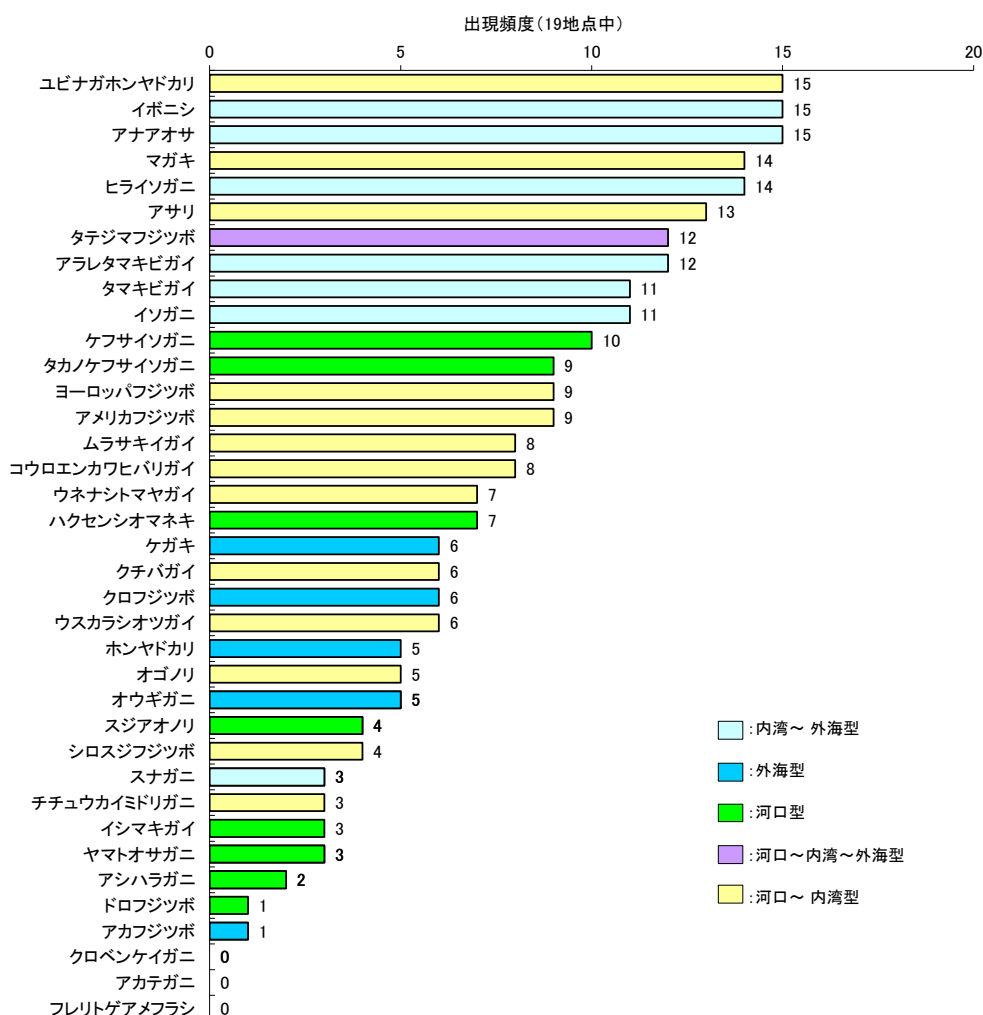
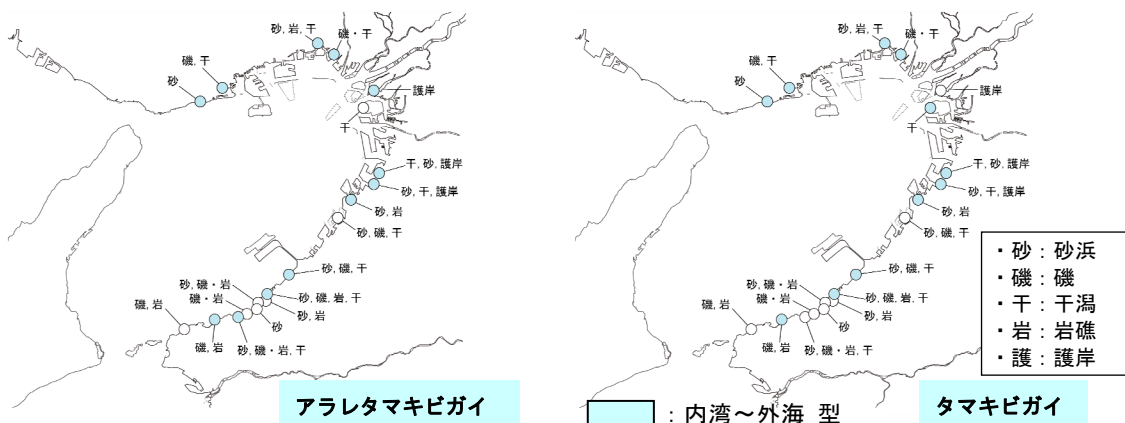


図5 調査シート掲載種の生態型と出現頻度（令和3年度）

調査シートのリスト掲載種を中心に、大阪湾の代表的な種の分布を図6(1)～(4)に示しました。

貝類・ヤドカリ類

- アラレタマキビガイ、タマキビガイは内湾～外海型で、アラレタマキビガイは高潮帯の波しぶきの当たる所を好みますが、本年も静穏な湾奥まで広域で出現しました。タマキビガイは、例年では、河川内・河口の一部を除くほぼ全域で出現していましたが、本年は尾崎海岸～せんなん里海公園までの海岸沿いの地点では出現しませんでした。



- 外海型のケガキは湾中間域より湾奥では出現せず、これに対し河口～内湾型のマガキはほぼ全域で出現しました。



- 外海型のホンヤドカリは、兵庫運河～榎井川河口・岡田浦海岸ラインより湾口側で出現しました。これに対し、河口～内湾型のユビナガホンヤドカリは湾内のほぼ全域で出現しました。

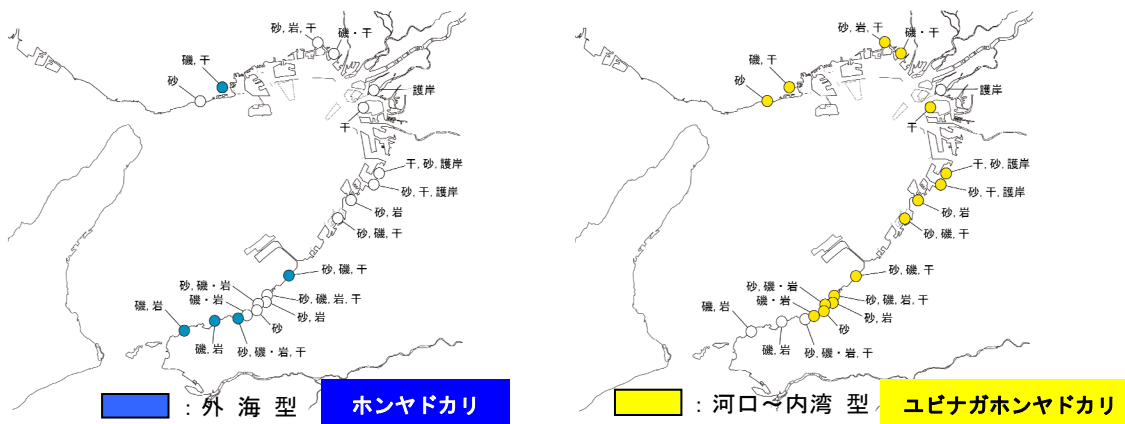
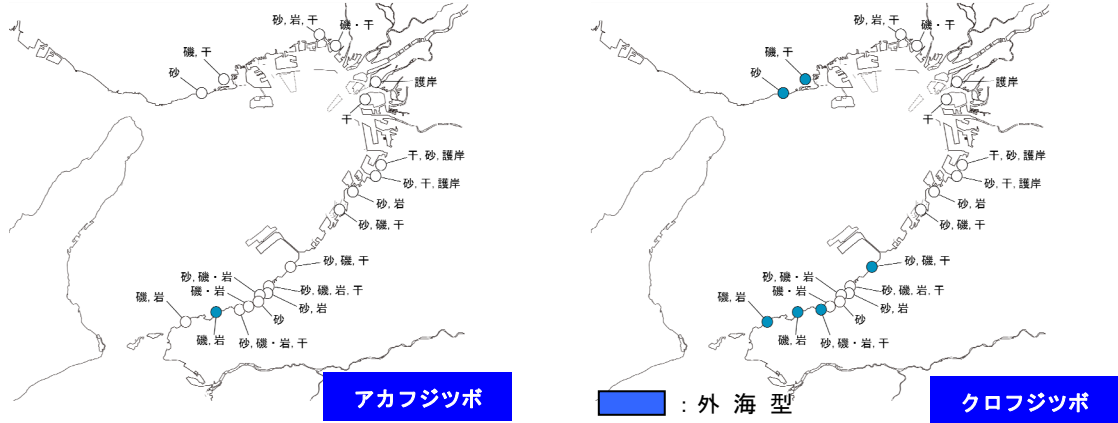


図6(1) 代表的な種の分布(貝類、ヤドカリ類)ー令和3年度

フジツボ類

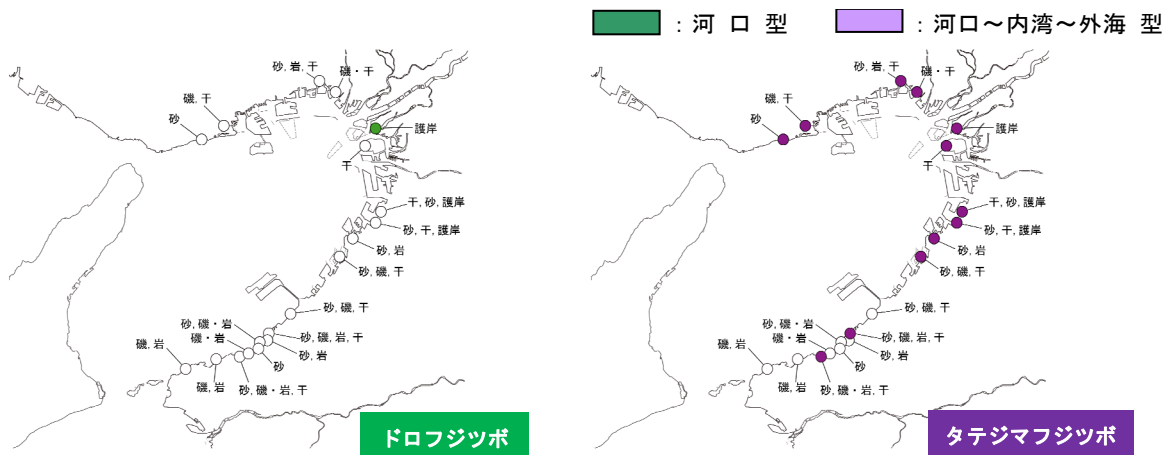
- 本年度は、外海型のアカフジツボは長松海岸でのみ出現しました。クロフジツボは兵庫運河－樫井川河口・岡田浦海岸ラインより湾口側で出現しました。



- 河口～内湾型のアメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボは湾中央～湾奥部で出現し、シロスジフジツボは主に湾口よりの地点で出現しました。



- 河口型のドロフジツボは湾奥で淡水の影響の強い河口付近の地点で出現しました。一方、広域型のタテジマフジツボは湾口～湾奥部の多くの地点で出現しました。



- なお、アカフジツボやドロフジツボは主に潮下帯に付着することから、観察される機会が少なかったことも考えられます。

図6 (2) 代表的な種の分布 (フジツボ類) - 令和3年度

カニ類

- 砂浜に生息するスナガニは、主に湾中央～湾奥の砂浜がある地点で確認されました。

砂浜に生息する



□ : 内湾～外海 型

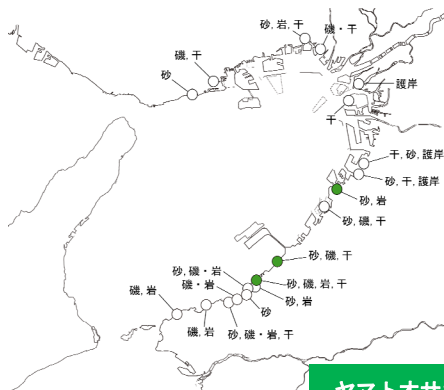
スナガニ

- 泥干潟に生息するヤマトオサガニは主に大津川・男里川などの河口や泥質干潟のある地点で出現し、砂礫性のハクセンシオマネキはそれ以外の地点でも出現しました。

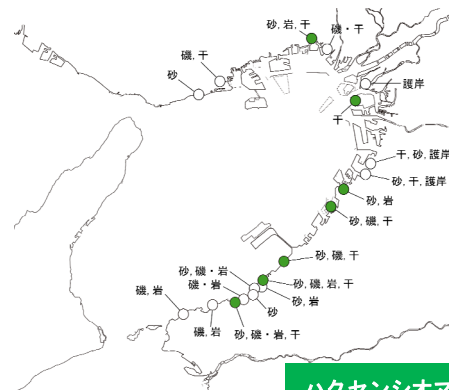
泥

<干潟に生息する>

砂泥、砂礫



ヤマトオサガニ



ハクセンシオマネキ

■ : 河口型

- アシハラガニは泥質干潟のある地点で出現しました。クロベンケイガニとアカテガニは本年度は確認されませんでした。

砂泥・粘土質

<河口のヨシ原等に生息する>

草地・崖・石垣



アシハラガニ



クロベンケイガニ




アカテガニ

■ : 河口型

図6 (3) 代表的な種の分布 (カニ類) - 令和3年度

外来種


- ミドリイガイは浜寺水路、高師浜、大津川河口で確認されました。ミドリイガイは主に潮間帯に生じ、潮間帯の観察では見つけにくいので、出現地点は年により変わっています。

 : 内湾～外海 型



ミドリイガイ


- ムラサキイガイは男里川河口干潟～兵庫県側の湾口付近で確認されました。

 : 河口～内湾 型



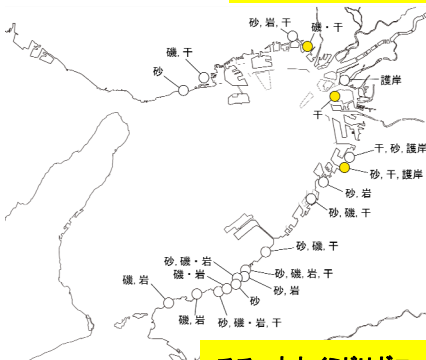
ムラサキイガイ

- コウロエンカワヒバリガイ、チチュウカイミドリガニは主に湾奥部で出現しました。

 : 河口～内湾 型



コウロエンカワヒバリガイ



チチュウカイミドリガニ


- 河口型のイガイダマシは、昨年に引き続き確認されませんでした。カニヤドリカンザシゴカイは本年度、香櫨園浜でのみ出現しました。河口～内湾型のウスカラシオツガイは湾奥部で出現しました。



イガイダマシ



カニヤドリカンザシゴカイ

 : 河口型



ウスカラシオツガイ


 : 河口～内湾 型

図6 (4) 代表的な種の分布 (外来種) - 令和3年度

3-2. 過年度との比較

調査シートのリスト掲載種について、平成 20～30 年度及び令和元～3 年度の調査結果を併せて整理し、表 3 に示しました。

平成 20 年度の調査シート掲載種は 41 種でしたが、出現状況を踏まえ、平成 21 年度以降は一部の種の入替えや追加を行い、43 種（多毛類、ヨコエビ類含まず）を調査シートに掲載して実施しました。また、各調査地点の調査場所については、団体によっては調査海岸を変更している場合や、同一地点内で調査範囲を変更している場合がみられ、調査人数にも違いがあります。

令和 2 年度以降の調査については、新型コロナウイルスの感染防止のため、調査時期が地点毎に異なっている場合や、調査人数を制限している場合があります。

このため、14 カ年の出現状況を単純に比較することはできませんが、経年的にほぼ同一場所で調査されているとみられる調査地点同士についてみると、おおむね種数が近似しており、同様の種が確認されている場合が多いため、各調査地点における安定した出現特性が分かるようになってきました。

表3(4) 調査シートのリスト掲載種の地点別出現状況(平成20~30、令和元~3年)

分類群	調査地点No.	16																出現頻度															
		調査地点	22	23	24	25	28	29	30	元	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3									
海藻類	緑藻類	アナオサ	●	●	●	●	●	●	●	12	12	12	13	16	16	13	14	13	14	15	14	11	15										
	紅藻類	スジアオリ								6	6	8	6	7	4	6	7	4	6	10	4	5	4										
植物		オカヒジキ	●							8	7	7	7	8	6	5	4	7	8	9	9	5	4										
		コウボウムギ								6	7	7	6	4	5	4	4	4	5	5	2	1	3										
		ハマウド	●							2	3	5	5	2	2	4	3	5	6	7	8	3	3										
		ハマゴウ	●							8	9	6	6	6	6	6	7	6	6	7	7	2	5										
		ハマダイコン	●	●	●	●	●	●	●	6	7	7	7	8	7	4	10	9	11	9	11	4	6										
		ハマボウフウ	●	●	●	●	●	●	●	6	9	8	7	7	6	6	8	5	7	8	7	2	3										
貝類	巻き貝類	アラレタマキガイ	●	●	●	●	●	●	●	-	10	10	9	10	10	18	14	17	18	21	17	9	12										
		イシマキガイ									5	5	7	7	9	9	9	10	10	8	8	3	3										
		イボニシ	●	●	●	●	●	●	●	●	13	14	13	13	18	17	17	18	19	22	20	19	12	15									
		タマキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	12	15	15	12	14	13	14	15	18	17	21	15	10	11									
		フレリゲアメフラン									1	2	0	0	1	2	0	1	1	2	0	1	1	0									
	二枚貝類	アサリ	●	●	●	●	●	●	●	●	12	14	15	12	12	17	15	17	13	16	19	15	10	13									
		ウスカラシオツガイ									4	5	2	1	5	5	5	3	6	7	5	1	2	6									
		ウネナシトマヤガイ									4	7	5	6	8	7	6	8	8	11	9	6	6	7									
		クチバガイ	●								-	9	8	6	6	5	10	8	7	7	10	10	4	6									
		ケガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	4	8	7	9	9	8	11	13	10	10	13	10	5	6									
		コウロエンカワヒバリガイ									7	8	7	8	12	12	12	13	14	14	12	10	6	8									
		マガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	13	15	17	17	18	18	16	19	20	20	22	19	12	14									
		ムラサキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	7	9	11	6	11	12	12	11	17	15	17	8	7	8									
		フジツボ類	アカフジツボ									1	2	0	0	2	2	0	0	1	3	1	1	0	1								
アメリカフジツボ										5	6	7	7	10	8	8	7	14	12	12	6	5	9										
クロフジツボ	●		●		●	●	●	●	●	5	4	6	4	5	6	6	6	8	8	8	7	3	6										
シロスジフジツボ										3	6	5	5	8	8	9	7	12	9	6	8	3	4										
タテジマフジツボ	●									11	12	13	14	15	14	14	14	20	18	16	11	10	12										
ドロフジツボ										4	2	3	3	5	6	5	4	7	6	5	4	1	1										
ヨーロッパフジツボ										5	6	4	5	8	8	8	12	13	11	12	9	9	9										
ヤドカリ類	ホンヤドカリ	●	●	●	●	●	●	●	●	-	6	4	7	6	9	6	10	7	7	8	9	4	5										
	ユビナガホンヤドカリ	●	●	●	●	●	●	●	●	-	14	15	15	16	18	19	21	20	21	22	20	13	15										
カニ類	アカテガニ									3	3	1	5	2	4	2	3	1	2	9	1	1	0										
	アンハラガニ									5	4	3	5	3	5	5	4	4	3	2	1	2	2										
	イソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	12	8	11	12	13	13	13	12	9	12	14	13	10	11										
	オウギガニ				●	●	●	●	●	1	1	1	0	0	3	2	3	6	4	2	3	2	5										
	クロベンケイガニ									-	4	3	3	4	6	2	2	4	2	3	1	2	0										
	ケフサイソガニ									11	12	11	11	14	16	16	15	17	15	13	10	9	10										
	スナガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	2	5	2	3	1	0	3	3	1	2	5	6	4	3										
	タカノケフサイソガニ									7	11	13	11	13	14	13	15	13	15	14	12	9	9										
	チチュウカイミドリガニ									5	7	6	3	5	6	7	6	7	7	10	9	3	3										
	ハクセンシオマネキ									6	8	7	7	7	9	7	8	9	7	8	5	5	7										
	ヒライソガニ	●	●	●	●	●	●	●	●	10	10	11	12	12	14	13	15	15	14	16	15	11	14										
ヤマトオサガニ									5	7	4	5	4	4	5	6	5	3	4	5	3	3											
その他	多毛類	□	□	□	□	□	□	□	□	-	14	14	14	19	19	21	19	24	23	25	21	16	11										
	ヨコエビ類	□	□	□	□	□	□	□	□	-	14	16	15	18	21	20	21	24	23	25	20	11	14										
種類数(●の数)			17	16	14	13	12	14	13	12	37	43	41	40	42	42	41	42	43	43	42	43	40										

注: 1) ●:種まで同定されたもの。□:種まで同定されていないもの(種数に含めない)。出現頻度欄の“-”は対象外を示す。
 2) 種名は各生物群中で五十音順。
 3) 平成20年度のリスト掲載種で出現せず、21年度ではリストから削除したヒトエグサ、ホンビノスガイ及びミナトオウギガニおよび、21年度にリストに追加したが確認されず22年にリストから削除したサキグロタマツメタの計4種については省略した。
 4) 平成22年度の近木川河口については、両岸・左岸合体見直しで、クチバガイとヒライソガニが追加され、24種となった。
 5) 大津川河口については、平成22年度までは右岸干潟で実施したが、23年度以降は通行不可のため左岸で実施した。津田川河口と茶屋川河口は平成20年に1回、海老江干潟は平成21.28年の2回のみのため、本経年表では省略した。
 6) 平成27年度は地点No.26波有手海岸とNo.27深日漁港干潟、平成28年度はNo.29廣訪森海岸、平成29年度はNo.30浜寺水路、平成30年度はNo.31西鳥取海岸とNo.32箱作海岸、令和元年度はNo.33尾崎漁港西浜、令和2年度はNo.34兵庫運河を、それぞれ追加した。
 7) 令和2年度は、No.34兵庫運河(新川橋河口)、No.2香榎園浜、No.20天保山、No.6野島園臨港緑地、No.13男里川河口干潟、No.26波有手海岸、No.31西鳥取海岸、No.32箱作自然海岸、No.14せんなん里海公園、及びNo.23長松海岸については春季(5~6月)に、No.21須磨海岸、No.34兵庫運河(村木橋)、No.3甲子園浜、No.4矢倉海岸、No.30浜寺水路、No.7高師浜、No.8大津川河口、及びNo.9阪南二区造成干潟については春季以外(7~10月)に実施された結果を示す。
 8) 令和3年度は、No.3甲子園浜、No.34兵庫運河についてはいずれも近傍地点の調査結果、No.13男里川河口干潟、No.25尾崎海岸については2団体以上の調査結果を統合した。

付表1(1) 令和3年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	和名	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF 干潟RDB 5)	干潟の絶滅危惧 動物図鑑 6)	
海藻類	緑藻類	1	スジアオノリ			減少傾向			
	褐藻類	2	ヤナギモク	(絶滅危惧Ⅱ類) : 県瀬戸内海沿岸					
海藻類		1	アマモ	アマモ場(生態系): A					
植物		1	コウボウムギ		絶滅危惧Ⅱ類				
		2	ハマゴウ		絶滅危惧Ⅱ類				
		3	ハマボウフウ		絶滅危惧Ⅰ類				
貝類	巻き貝類	1	アカニシ			減少	危険		
		2	イシマキガイ			減少			
		3	イリエゴウナ			絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧Ⅱ類	
		4	ウミナメクジ		情報不足			危険	
		5	ウミニナ		準絶滅危惧	準絶滅危惧	減少傾向	危険	準絶滅危惧
		6	エドガワミズゴマツボ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		7	カキウラクチキレモドキ	(準絶滅危惧)	絶滅危惧Ⅱ類			危険	
		8	カノコキセフタ		情報不足			危険	
		9	カワザンショウガイ		準絶滅危惧				
		10	クチキレガイ		情報不足				
		11	クリイロカワザンショウ属	(絶滅危惧Ⅱ類)					
		12	シゲヤスイトカケギリガイ			準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		13	シボリガイ		準絶滅危惧				
		14	シラギクガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		15	スオウクチキレガイ			準絶滅危惧			準絶滅危惧
		16	タケノコカワニナ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅寸前	準絶滅危惧
		17	タニシツボ			準絶滅危惧			準絶滅危惧
		18	ヌカルミクチキレガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		19	ヒメコザラガイ		準絶滅危惧				
		20	フトヘナタリ		準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		21	ヘナタリ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		22	ホソウミニナ		絶滅危惧Ⅰ類				
		23	マルウズラタマキビガイ					危険	
		24	ミヤコドリガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		25	ヨコイトカケギリ		情報不足			危険	
	二枚貝類	26	イワガキ				減少傾向		
		27	ウネナシタマヤガイ			準絶滅危惧		危険	
		28	オオノガイ	(絶滅危惧Ⅱ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
		29	カガミガイ		準絶滅危惧				
		30	クチバガイ			準絶滅危惧			
		31	サクラガイ		準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧
		32	ソトオリガイ		準絶滅危惧			危険	
		33	ニッポンマメアゲマキガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧			準絶滅危惧
		34	バカガイ		準絶滅危惧				
		35	ヒメアサリ		準絶滅危惧				
		36	ヒメカノアサリ		準絶滅危惧				
		37	マツカゼガイ		準絶滅危惧				
		38	マテガイ	要注目	準絶滅危惧				
		39	ムラサキガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅寸前	絶滅危惧Ⅱ類
		40	ヤマトシジミ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧
		41	ユウシオガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧
多毛類	1	イソタマシキゴカイ		情報不足			希少		
	2	カワゴカイ属	(準絶滅危惧)						
	3	コケゴカイ	(準絶滅危惧)						
	4	スナイソゴカイ	要調査						
	5	タマシキゴカイ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					
ヨコエビ・ ワレカラ類	1	ウエノドロクダムシ		情報不足					
	2	ヒゲナガヨコエビ属		情報不足					
ヤドカリ類	1	テナガツノヤドカリ			情報不足(海2017)			準絶滅危惧	
	2	ヨモギホンヤドカリ			準絶滅危惧(海2017)			準絶滅危惧	
カニ類	1	アシハラガニ	(準絶滅危惧)						
	2	オサガニ	(絶滅危惧Ⅰ類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧(海2017)			準絶滅危惧	
	3	シオマネキ		絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	希少	危険	絶滅危惧Ⅱ類	
	4	スナガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧				
	5	スネナガイソガニ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧			希少	準絶滅危惧	
	6	トリウミアカインモドキ	(絶滅危惧Ⅱ類)	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧(海2017)		危険	準絶滅危惧	
	7	ハウセンシオマネキ	(準絶滅危惧)		絶滅危惧Ⅱ類		危険	準絶滅危惧	

付表1(2) 令和3年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	和名	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF 干潟RDB 5)	干潟の絶滅危惧 動物図鑑 6)
カニ類(続き)	8	ハマガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧(海2017)			準絶滅危惧
	9	ヒメアシハラガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧(海2017)			準絶滅危惧
	10	フタバカクガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)					
	11	マメコブシガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧				準絶滅危惧
	12	モクズガニ				減少傾向		
	14	ヤマトオサガニ	(準絶滅危惧)					
魚類	1	アイナメ			絶滅のおそれのある地域 個体群:瀬戸内海			
	2	トサカギンボ	要調査					
	3	ニホンウナギ	(準絶滅危惧)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類			
その他	イソギンチャク類	1	イソケイソギンチャク		情報不足			
		2	ヒメイカ		絶滅危惧Ⅱ類		減少	
	ホシムシ類	3	スジホシムシ	要調査		準絶滅危惧(海2017)		希少:瀬戸内海 準絶滅危惧 (瀬戸内海)
		4	ニホンスナモグリ	(準絶滅危惧)	絶滅危惧Ⅱ類			
	アナジャコ類	5	ハサミジャコエビ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧			
		6	エビジャコ属	(絶滅危惧Ⅱ類)				
	エビ類	7	クルマエビ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧			
		8	テッポウエビ	(準絶滅危惧)				
	ウニ類	9	アカウニ				減少傾向	
		10	ヒラタフブク					危険
	ナマコ類	11	ヒモイカリナマコ	(絶滅危惧Ⅱ類)	準絶滅危惧			危険
	ナメクジウオ類	12	ヒガシナメクジウオ	(絶滅危惧Ⅱ類)		絶滅危惧Ⅱ類(海2017)	危急	危険 (ナメクジウオ)

注)

- 兵庫県版 レッドリスト2014(貝類・その他無脊椎動物)、レッドリスト2020(植物・植物群落)、兵庫県版レッドデータブック2017(魚類)
()は兵庫県評価を「改訂・日本版レッドデータブック」の相当カテゴリーに置換したもの。
- 大阪府 レッドリスト2014
- 環境省 レッドリスト(2020)、海洋生物レッドリスト(2017)
- 水産庁.1998:日本の希少な野生水生生物に関するデータブック.社団法人日本水産資源保護協会.437pp.東京.
評価「普通」は省略した。
- WWF Japan Science Reprint vol.3.1996.
- 日本ベントス学会編 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック- 東海大学出版会. 神奈川県. 285pp.
- 貴重種選定にあたり、基本的に水生動植物を対象とし、陸上植物は本調査の調査シート掲載種に限定した。
- 各評価の区分と定義概念は下記による。特に区別の記載のない区分は環境省に準ずる。
絶滅危惧Ⅰ類:現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類:現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧:現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足:評価するだけの情報が不足している種。
地域個体群:地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
要注目種(兵庫):最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種。
要調査種(兵庫):環境省レッドデータブックの情報不足に相当。兵庫県において評価するに足るデータがない種。
要注目種(大阪):「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」「情報不足」の区分以外で大阪府において保護上重要なもの。
減少傾向(水産庁):長期的にみて減少しつつあるもの。
減少(水産庁):明らかに減少しているもの。
希少(水産庁):存続基盤が脆弱な種・亜種。
危急(水産庁):絶滅の危険が増大している種・亜種(環境省に準ずる)。
危険(WWF):絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの。
希少(WWF):特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。「普通/希少」は地域により評価が異なる場合。
- 表中網掛けは、評価指定後、今年度初確認の貴重種を示す。なお、エビジャコについては、兵庫県の指定は「エビジャコ属の一種」であるが、同属に含まれるため記載した。
- 貴重種記載資料の該当府県の場所で出現していない場合もある。